

令和5年度「公共」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
1	普通・理数・美術	公民	公共	2	必修
教科書	公共（第一学習社）				
副教材	最新公共資料集2023（第一学習社）				

学習の目標	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
	教科書、資料集の記述を読み解きながら、現在問題となっていることを把握する。また、先人が築き上げてきた社会を知る。	多様な立場があることを把握した上で、自らをそれぞれの立場に立たせ、自分がその立場でどのような判断を下すのかを考える。	将来的に、この教科で学んだことを活かせるよう、知識を得るための多様な方法論を身につける。

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合	6	2	2
主な評価方法	定期考査		
		レポート・提出物	
	レポートの提出状況と取組状況		
			自己評価

履修上の注意及び学習のアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた情報を考えもせず鵜呑みせず、思考のフィルターを通すこと。 ・疑問があれば恥ずかしがらずに尋ねること。 ・他者が意見を言う権利を妨げず、健全なコミュニケーションを取ること。 ・予習することよりも、復習することに重点を置くこと。
------------------	---

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの		
	Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる	Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考査	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち	社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを学ぶ。		みずからの価値観も、他者の価値観も、ともに尊重することは、公共的な空間のなかで、共に生きていく上で、なぜ必要なのだろうか。
	5	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。		世界の富の偏りに対して、選択・判断の手がかりとなる二つの考え方から考えよう。結果と義務を用いて考えようと、どのような対応が考えられるだろうか。
	6	第3章 公共的な空間における基本的原理	古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、公共的な空間における基本的原理を理解する。	期末	ポピュリズムの事例について調べた上で、どのようにすれば民主主義の基本原理がいかされた社会を形成できるか考えよう。
	7				身近なところで、「自分の自由」と「他者の自由」が衝突する事例をあげ、その解決策を考えよう。
第2学期	9	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 第1章 法的な主体となる私たち ・法や規範の意義と役割 ・契約と消費者の権利・責任 ・司法参加の意義	法やルールを定める時には、どのようなことに配慮する必要があるかを理解する。	中間	差別を解消するための取り組みはどこまで適切か、「法の支配」の観点から考えよう。
	10		契約が対等な当事者間の合意といえるための条件を理解する。 個人や社会の紛争を法に基づいて公正に解決するために必要なしくみと、国民が果たすべき責任を理解する。		刑罰は、報いとしてあるのだろうか、それとも犯罪の予防としてあるのだろうか。
	11	第2章 政治的な主体となる私たち ・政治参加と公正な世論の形成	民主政治を推進するために、私たちが果たすべき責任を理解する。	期末	政治的無関心が増大すると、どのような問題が生じるのだろうか。
	12				情報化やグローバル化が進むなかで、公正な世論は、どのように形成されるのだろうか。
第3学期	1	・国際社会と国家主権	主権国家が並び立つ国際社会は、どのように成り立っているのかを理解する。		日本の安全保障やSDGsの理念に、人間の尊厳と平等の考え方は、どのようにいかされているのだろうか。
	2	・日本の安全保障と防衛	日本国憲法の平和主義の下、私たちが果たすべき責任を理解する。	学年末	核軍縮はなぜ進まないのだろうか。 核軍縮の実現は可能なのだろうか。
	3	・国際社会の変化と日本の役割	国際社会を実現するために必要な日本の役割を理解する。 ・国際社会の変化と日本の役割に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。		これからの国際社会において、情報通信技術が果たすべき役割はなんだろうか。

※行事等で変更になる場合があります。

令和5年度「政治・経済」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
3	普通科文系	公民	政治経済	2	選択
教科書	改訂版 政治・経済（数研出版）				
副教材	最新政治経済資料集2023				

	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
学習の目標	現代の社会的事象と人間としての在り方生き方とにかかわる基本的な事柄を理解し、その知識を身につけている。	現代社会と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化やさまざまな考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	現代社会と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追求すると共に、平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとする。

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合			
主な評価方法	課題考査・定期考査		
			提出物の提出状況とその取組状況
		レポートの提出状況と取組状況	
	確認テスト		確認テスト
			自己評価

履修上の注意及び学習のアドバイス	①政治や経済のしくみや考え方を説明できるように理解しよう。※しくみの長所と短所を押さえる ②新聞・ニュースで時事テーマを把握しよう。 ③図表や資料の読み取りも大事にしよう。 ④主体的・意欲的に学習を進めよう。問題集をどんどん進めてください！！
------------------	--

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの		
二高ICEモデルとは？	Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる	Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考查	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	第1章 現代の国際政治 第1節 国際政治の動向 (1)国際社会の特質	●国際社会の成立とその特色、国際法の意義と役割、国際社会の主体の変化などについて、実際の国際的な事象と関連させながら理解させる。		○国際社会はどのような特色を持つか ○国際社会を秩序づける国際法とは何だろうか ○国際連合の機構は国際連盟とどう違うのか
	5	(2)国際社会と国際法 (3)国際社会の組織化 (4)戦後国際政治の展開	●集団安全保障としての国際連盟、国際連合の成立とそのしくみと役割と課題について、考察させる。		○国連にはどのような課題があるのだろうか ○戦後国際政治の流れはどのように変わってきたか
	6	第2節 核兵器の廃絶と軍縮問題 (1)核兵器の廃絶と軍縮問題	●核兵器をめぐる世界の動きを、核拡散の現状、国連における核兵器禁止条約、INF全廃条約などを理解させる。あわせて核軍縮が進まない理由について、多面的・多角的に考察させる。		○冷戦後の新秩序はどのように形成されつつあるか ○核の脅威に対し国際社会はどのように対処してきたか
	7	(2)地域紛争と人種・民族問題 (3)日本の国際的地位の役割	●冷戦後の世界の動き、冷戦終結後の日本の安全保障政策、自衛隊と海外派遣などについて考察させる。	期末	○紛争解決のためにはどのようなことが必要なのだろうか ○日本の対外関係はどのように推移し、今後どうあるべきか
第2学期	9	第2章 国民経済と国際経済 第1節 国際経済の動向 (1)貿易と国際収支 (2)国際経済のしくみ	●(1学期の続き) ●貿易の意義、為替相場や国際収支のしくみ、国際協調の必要性や国際経済機関の役割を理解させ、グローバル化が進む国際経済の特質について把握させ、国際経済における日本の役割について考察させる。		○外国為替相場の変動のしくみとその影響を理解しよう ○国際経済体制はどのように変遷してきたのだろうか
	10	第2節 国際経済の課題と国際協力 (1)地球環境と資源エネルギー (2)発展途上国の経済と経済協力	●地球環境と資源・エネルギー問題、国際経済格差の是正と国際協力、人種・民族問題と地域紛争、国際社会における日本の立場と役割などについて、政治と経済とを関連させて探究させる。	中間	○国際通貨危機はなぜ発生したか ○GATT・IMFはどのような機能を持つか
	11	第1章2節 日本経済と福祉の向上 (1)戦後日本経済のあゆみ (2)労使関係と労働市場 (3)少子高齢化と社会保障	●高度経済成長以降の様々な社会的事象の学習を通して、現代社会の成り立ちを概観し、生徒が生きている現代社会の特色に気づかせる。		○発展途上国間の経済格差は、なぜできたのだろうか ○日本経済の国際化はどのように進んだか
	12		●少子高齢社会と社会保障の充実、日本経済の発展と課題など、経済上の諸課題に関心を持ち、国や地方公共団体が果たしている経済的な役割について多面的・多角的に考えさせる。	学年末	○高度経済成長はどのように推移したか ○21世紀の日本経済にはどのような課題があるのだろうか
第3学期	1				
	2				
	3				

※行事等で変更になる場合があります。

令和5年度「倫理応用」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
3	普通科文系	公民	倫理応用	2	選択
教科書	『倫理』（東京書籍）／図解いちばんやさしい哲学の本（彩図社）				
副教材	テオリア最新 倫理資料集（第一学習社）／ 倫理用語集（山川出版）				

学習の目標	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
	2千数百年来、人類が築き上げてきた知的遺産を知識として獲得し、さらに人間の本質を問うようなレベルで理解しようとする。	民主主義の基本を踏まえ、現代社会と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間の存在及び価値などについて歴史的に考察し、広い視野に立ち、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	共同体における倫理に関わる間にかかわる先哲の思想に触れることで、主体的に思考し、多角的・多面的な問う中で、互いの人格を尊重し民主的でよりよい社会を築いていこうとする意欲と態度を深める。

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合	(割合は表の斜線部分で示されています)		
主な評価方法	課題考査・定期考査・実力考査		
			提出物の提出状況とその取組状況
	レポートの提出状況と取組状況		
	小テスト		小テスト
			自己評価

履修上の注意及び学習のアドバイス	<p>①各時代状況を踏まえ、各時代を生きた思想家と思想家がその時代に与えた影響を理解する。</p> <p>②教科書にある思想家をはじめ、さまざまな思想内容を、自分の日常生活を結び付けて考える力を身につける。</p> <p>③②を実現するために、日頃から新聞・ニュース・ネット・テレビなど身近なところにある情報を的確に把握する力が必要である。</p> <p>④③を実現するために、生徒綱領にある自主積極の精神を持って、主体的・自覚的に学習に取り組む気概を持つことが必要である。</p>
------------------	---

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの				
	二高ICEモデルとは？	Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる	Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする	

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考査	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	第1章 現代の国際政治 第1節 国際政治の動向 (1)国際社会の特質	●国際社会の成立とその特色、国際法の意義と役割、国際社会の主体の変化などについて、実際の国際的な事象と関連させながら理解させる。		○国際社会はどのような特色を持つか ○国際社会を秩序づける国際法とは何だろうか ○国際連合の機構は国際連盟とどう違うのか
	5	(2)国際社会と国際法 (3)国際社会の組織化 (4)戦後国際政治の展開	●集団安全保障としての国際連盟、国際連合の成立とそのしくみと役割と課題について、考察させる。		○国連にはどのような課題があるのだろうか ○戦後国際政治の流れはどのように変わってきたか
	6	第2節 核兵器の廃絶と軍縮問題 (1)核兵器の廃絶と軍縮問題	●核兵器をめぐる世界の動きを、核拡散の現状、国連における核兵器禁止条約、INF全廃条約などを理解させる。あわせて核軍縮が進まない理由について、多面的・多角的に考察させる。		○冷戦後の新秩序はどのように形成されつつあるか ○核の脅威に対し国際社会はどのように対処してきたか
	7	(2)地域紛争と人種・民族問題 (3)日本の国際的地位の役割	●冷戦後の世界の動き、冷戦終結後の日本の安全保障政策、自衛隊と海外派遣などについて考察させる。	期末	○紛争解決のためにはどのようなことが必要なのだろうか ○日本の対外関係はどのように推移し、今後どうあるべきか
第2学期	9	第2章 国民経済と国際経済 第1節 国際経済の動向 (1)貿易と国際収支 (2)国際経済のしくみ	●(1学期の続き) ●貿易の意義、為替相場や国際収支のしくみ、国際協調の必要性や国際経済機関の役割を理解させ、グローバル化が進む国際経済の特質について把握させ、国際経済における日本の役割について考察させる。		○外国為替相場の変動のしくみとその影響を理解しよう ○国際経済体制はどのように変遷してきたのだろうか
	10	第2節 国際経済の課題と国際協力 (1)地球環境と資源エネルギー (2)発展途上国の経済と経済協力	●地球環境と資源・エネルギー問題、国際経済格差の是正と国際協力、人種・民族問題と地域紛争、国際社会における日本の立場と役割などについて、政治と経済とを関連させて探究させる。	中間	○国際通貨危機はなぜ発生したか ○GATT・IMFはどのような機能を持つか
	11	第1章2節 日本経済と福祉の向上 (1)戦後日本経済のあゆみ (2)労使関係と労働市場 (3)少子高齢化と社会保障	●高度経済成長以降の様々な社会的事象の学習を通して、現代社会の成り立ちを概観し、生徒が生きている現代社会の特色に気づかせる。		○発展途上国間の経済格差は、なぜできたのだろうか ○日本経済の国際化はどのように進んだか
	12		●少子高齢社会と社会保障の充実、日本経済の発展と課題など、経済上の諸課題に関心を持ち、国や地方公共団体が果たしている経済的な役割について多面的・多角的に考えさせる。	学年末	○高度経済成長はどのように推移したか ○21世紀の日本経済にはどのような課題があるだろうか
第3学期	1				
	2				
	3				

※行事等で変更になる場合があります。

令和5年度「倫理」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
3	普通科文系	公民	倫理	4	選択
教科書	『倫理』（東京書籍）				
副教材	オーリア最新 倫理資料集（第一学習社）／倫理用語集（山川出版）／ゼロから始める哲学（西東社）				

学習の目標	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
	2千数百年来、人類が築き上げてきた知的遺産を知識として獲得し、さらに人間の本質を問うようなレベルで理解しようとする。	民主主義の基本を踏まえ、現代社会と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間の存在及び価値などについて歴史的に考察し、広い視野に立ち、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	共同体における倫理に関わる間にかかわる先哲の思想に触れることで、主体的に思考し、多角的・多面的な問う中で、互いの人格を尊重し民主的でよりよい社会を築いていこうとする意欲と態度を深める。

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合			
主な評価方法	課題考査・定期考査・実力考査		
			提出物の提出状況とその取組状況
	レポートの提出状況と取組状況		
	小テスト		小テスト
			自己評価

履修上の注意及び学習のアドバイス	<p>①各時代状況を踏まえ、各時代を生きた思想家と思想家がその時代に与えた影響を理解する。</p> <p>②教科書にある思想家をはじめ、さまざまな思想内容を、自分の日常生活と結び付けて考える力を身につける。</p> <p>③②を実現するために、日頃から新聞・ニュース・ネット・テレビなど身近なところにある情報を的確に把握し関連関連づける力を磨くことが必要である。</p> <p>④③の実現のため、生徒綱領にある自主積極の精神を持って、主体的・自覚的に学習に取り組むことが必要である。</p>
------------------	---

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの		
	Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる	Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考查	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	第1章 現代の国際政治 第1節 国際政治の動向 (1)国際社会の特質	●国際社会の成立とその特色、国際法の意義と役割、国際社会の主体の変化などについて、実際の国際的な事象と関連させながら理解させる。		○国際社会はどのような特色を持つか ○国際社会を秩序づける国際法とは何だろうか ○国際連合の機構は国際連盟とどう違うのか
	5	(2)国際社会と国際法 (3)国際社会の組織化 (4)戦後国際政治の展開	●集団安全保障としての国際連盟、国際連合の成立とそのしくみと役割と課題について、考察させる。		○国連にはどのような課題があるのだろうか ○戦後国際政治の流れはどのように変わってきたか
	6	第2節 核兵器の廃絶と軍縮問題 (1)核兵器の廃絶と軍縮問題	●核兵器をめぐる世界の動きを、核拡散の現状、国連における核兵器禁止条約、INF全廃条約などを理解させる。あわせて核軍縮が進まない理由について、多面的・多角的に考察させる。		○冷戦後の新秩序はどのように形成されつつあるか ○核の脅威に対し国際社会はどのように対処してきたか
	7	(2)地域紛争と人種・民族問題 (3)日本の国際的地位の役割	●冷戦後の世界の動き、冷戦終結後の日本の安全保障政策、自衛隊と海外派遣などについて考察させる。	期末	○紛争解決のためにはどのようなことが必要なのだろうか ○日本の対外関係はどのように推移し、今後どうあるべきか
第2学期	9	第2章 国民経済と国際経済 第1節 国際経済の動向 (1)貿易と国際収支 (2)国際経済のしくみ	●(1学期の続き) ●貿易の意義、為替相場や国際収支のしくみ、国際協調の必要性や国際経済機関の役割を理解させ、グローバル化が進む国際経済の特質について把握させ、国際経済における日本の役割について考察させる。		○外国為替相場の変動のしくみとその影響を理解しよう ○国際経済体制はどのように変遷してきたのだろうか
	10	第2節 国際経済の課題と国際協力 (1)地球環境と資源エネルギー (2)発展途上国の経済と経済協力	●地球環境と資源・エネルギー問題、国際経済格差の是正と国際協力、人種・民族問題と地域紛争、国際社会における日本の立場と役割などについて、政治と経済とを関連させて探究させる。	中間	○国際通貨危機はなぜ発生したか ○GATT・IMFはどのような機能を持つか
	11	第1章2節 日本経済と福祉の向上 (1)戦後日本経済のあゆみ (2)労使関係と労働市場 (3)少子高齢化と社会保障	●高度経済成長以降の様々な社会的事象の学習を通して、現代社会の成り立ちを概観し、生徒が生きている現代社会の特色に気づかせる。		○発展途上国間の経済格差は、なぜできたのだろうか ○日本経済の国際化はどのように進んだか
	12		●少子高齢社会と社会保障の充実、日本経済の発展と課題など、経済上の諸課題に関心を持ち、国や地方公共団体が果たしている経済的な役割について多面的・多角的に考えさせる。	学年末	○高度経済成長はどのように推移したか ○21世紀の日本経済にはどのような課題があるのだろうか
第3学期	1				
	2				
	3				

※行事等で変更になる場合があります。